

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02217

研究課題名(和文) 字母分析を中心とした諸本論の基礎的研究

研究課題名(英文) Fundamental study of various theories focusing on character analysis

研究代表者

沼尻 利通 (NUMAJIRI, Toshimichi)

福岡教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：90587635

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、写本における平仮名の字母を分析することを通して、諸本の関係性を考察することを試みたものである。本研究で明らかとなったことは、(1)『紫式部日記』の黒川本は優れた本とされているが、肥前松平文庫本や扶桑拾葉集所収版本と比較していくと、その特異性が浮かびあがってきたこと。(2)三條西家本『源氏物語』篝火巻は、日本大学本を祖として、宮内庁書陵部後陽成院宸翰本や京都大学図書館中院文庫本が派生したらしいこと。(3)『大江千里集』の伝寂蓮本を祖として、小城鍋島文庫本の二本が派生したらしいこと。以上の三点が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：It was analyzed the alphabet of manuscripts. According to this study, The relation of various books became clear. MURASAKISHIKIBUNITUKI 'KUROKAWABON is unique. GENJIMONOGATARI 'SANJIYOUNISHIKEbook has many lines. OESENRI SHIYU 'DENJIYAKURENbook gave birth to two OGINABESHIMABOOK.

研究分野：日本文学

キーワード：紫式部日記 源氏物語 三條西家本 大江千里集 小城鍋島文庫 字母 写本 版本

1. 研究開始当初の背景

古典文学作品の写本を分類する方法は、本文の違いを比較し、その結果をもとにグルーピングする手法がある。このほかに、写本の表記に注目する方法もある。写本の漢字と平仮名の含有率を割り出す方法である。この手法は、さらに平仮名の字母の用いられ方に着目する方法が、最近、注目を集めている。

本研究では、以上の研究動向をふまえた上で、写本の平仮名の字母分析をおこない、写本同士の関係性をより具体的に分析していくことを目指した。

2. 研究の目的

本研究は、写本の平仮名の字母分析により、写本同士の関係性を、より具体的に分析することが目的である。

研究対象とするのは、(1)『紫式部日記』の写本・版本、(2)三条西家本系統『源氏物語』篝火巻、(3)『大江千里集』伝寂蓮本と佐賀大学附属図書館小城鍋島文庫蔵の二本、である。

なお、申請時には、(1)(2)を軸とした研究の目的であったが、申請後、佐賀大学附属図書館小城鍋島文庫の調査をする機会を得た。そこで『大江千里集』の二本を閲覧する機会に恵まれた。予備調査から二本の字母が極めて近接することから、小城鍋島文庫蔵本の二本の『大江千里集』の字母分析を目的に加えた。

3. 研究の方法

(1)『紫式部日記』の黒川本、肥前松平本、扶桑拾葉集所収の版本、以上三本の翻刻、および字母を並列する。そして、翻刻の異同と字母の異同を確認する。

(2)三条西家本系統『源氏物語』篝火巻の、日本大学本、蓬左文庫本、早稲田大学本、京都大学図書館中院文庫本、宮内庁書陵部本、宮内庁書陵部後陽成院宸翰本の六本を翻刻、および字母を並列、翻刻の異同と字母の異同を確認する。

(3)『大江千里集』伝寂蓮本と佐賀大学附属小城鍋島文庫本の二本の、和歌部分の翻刻と字母採集をおこない、それぞれを並列し、翻刻の異同と字母の異同を確認する。

以上のように、翻刻レベルでの異同と字母レベルでの異同を区別したうえで、それぞれのレベルでの異同を確認した。また、用いられた字母を一覧表にした。

4. 研究成果

(1)『紫式部日記』の黒川本、肥前松平本、扶桑拾葉集所収版本の三本の翻刻と字母を並列した、『紫式部日記本文資料集』を刊行した。池田亀鑑「校異紫式部日記」の区分を用い、頁数を付すなど、追試しやすい工夫をした。

この調査により、『紫式部日記』の黒川本の特異性が明らかとなった。黒川本と肥前松

平本は、その近似性に注目され、あるいは兄弟本(共通する親本をもとに写された写本)か、あるいはどちらかが親本となり、それを写したのではないか、などと考えられてきた。しかし、字母レベルでは、共通性が多いところもあるものの、その違いも明らかとなり、単純にとらえることができないことがわかった。

また、黒川本の仮名遣いが、肥前松平文庫本の仮名遣いと一致しない。肥前松平文庫本の仮名遣いは、版本の仮名遣いと一致し、黒川本の仮名遣いは特異なのである。これは、黒川本や肥前松平文庫本の親本を考えるさいに、重要なポイントとなる。黒川本は親本の仮名遣いを変えて書写しているか、あるいは黒川本の親本に既に仮名遣いを変えられているか、どちらかの可能性が高い。仮名遣いの変換はかなり徹底されていることから、黒川本かその親本は、おそらくそれなりに知識のある人物によって書写されたことが推測できる。逆に言えば、黒川本はかなり手が加えられた本なのではないかと考えられる。

黒川本は書写者が一名ではなく、二名であることが、先行研究に既に指摘がある(平林文雄「書陵部蔵黒川本『紫日記』(紫式部日記)翻刻解題(上)」『群女国文』第13号 1985年10月)下巻19丁表6行目4字から、別人の手により最後まで書かれている。おそらくこの仮名遣いの変換は親本から黒川本が書写されるさいにおこったのではなく、既に黒川本の親本においてなされており、黒川本はそれを忠実に写している可能性もある。すなわち、肥前松平文庫本の親本と黒川本の親本は異なっていることが考えられる。黒川本と肥前松平文庫本は親子関係か兄弟関係と考えられてきたが、そのような単純なものではなく、より複雑な関係にあると考えるべきである。

今後は、黒川本と肥前松平文庫本をより具体的に解析し、その関係性の究明につとめていきたい。同時に、他の写本や版本との本文異同および字母レベルでの異同を確認する必要がある。

(2)三条西家本系統『源氏物語』篝火巻の分析では、日本大学本と宮内庁書陵部後陽成院宸翰本の近似性が明らかとなった。宸翰本は、日本大学本を字母のレベルまで忠実に書写している。字母レベルまでの忠実な書写ではないものの、日大本を写しているものはほかに京都大学図書館中院文庫本があり、日本大学本を祖として、宸翰本、中院文庫本の日本が系統関係にあることが明らかとなった。ほか蓬左文庫本、宮内庁書陵部本は、日本大学本の校合に用いられた可能性があり、日本大学本の異文注記と一致することもみられた。早稲田大学本は日本大学本と異同が著しく、関係性は遠いように思われる。

今後は、宸翰本や中院文庫本がどの時期に誰によって書写されたのかの探究と、蓬左文庫本と宮内庁書陵部本の位置付けの究明が

求められる。

三條西家本は日本大学本が家本として尊重されてきたことは疑いがなからうが、ただ三條西家の歴史をみると、三條西家は何セットも『源氏物語』を書写していたようである（中城さと子「三條西家の家本『源氏物語』について」『名古屋平安文学研究会会報 第34号 2011年3月』）とすると、蓬左文庫本や宮内庁書陵部本の親本はいったいどのような出自のものか、究明する必要がある。

また、今回の調査は篝火巻に限定したものであるため、全巻でもこのことが該当するのか、今後検証する必要がある。

(3)『大江千里集』伝寂蓮本と佐賀大学附属小城鍋島文庫本の二本は、字母レベルまで忠実に書写したものである。字母の一覧表を作成したが、ほぼ用いる字母の数が一致し、また欠字箇所なども一致していることから、伝寂蓮本から小城鍋島文庫本が派生したことは疑いが無い。

伝寂蓮本が親本となり、小城鍋島文庫本はその親本をもとに、字母レベルで忠実に書写したのである。おそらく小城鍋島藩の鍋島直能が歌学の勉強のために京都の公家から『大江千里集』伝寂蓮本を借り受け、それを書写したものと考えられる。ただ、小城鍋島本は二本あり、伝寂蓮本からそれぞれ二本が派生したのか、伝寂蓮本を忠実に写した一本を、さらに写した一本が派生したのか、わからない。

今後は、小城鍋島文庫本の二本の関係性をより詳しく検証する必要がある。また、字母レベルで写すことが、どのような意味を持つのかを考えるべきである。三條西家本『源氏物語』の日本大学本と宸翰本は、字母レベルで書写がなされているが、それは日本大学本が三條西家の家本として尊重されており、それを後陽成院も受けて、本文を最大限に尊重するために書写していることがうかがわれ、それは親本に対する信仰のようなものがあった可能性がある。親本が優れたものであるという尊崇の態度が、書写のさいに字母レベルで写す、という行為につながっていると考えて良いと思われる。

また、歌学とは「すぐれた和歌を作る事」はもちろんではあるが、それにとどまらず、ひらがなをどのような字母を用いて使うか、ということも含めての営為であった可能性もある。

いずれにせよ、翻刻による本文異同のみならず、字母レベルでの異同を確認することは、今後の本文研究においてより求められることであろうと考えられる。

以上の研究成果については、論文化がまったくすすんでいない。『紫式部日記』の黒川本と松平文庫本の関係性、三條西家本系統『源氏物語』篝火巻の諸本についての関係性、『大江千里集』伝寂蓮本と小城鍋島文庫本二本の関係性、以上の三点については、論文化を急ぎたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8件)

(1)沼尻利通「『枕草子』「春はあけぼの」条の諸問題」『西日本国語国文学』第4号、査読有、2017年7月、P15~30

(2)沼尻利通「湖月抄の八尾版」『中古文学』第99号、査読有、2017年6月、P86~101

(3)沼尻利通「『枕草子春曙抄』の章段区分方法」『日本文学』第66巻第6号、査読有、2017年6月、P1~14

(4)中尾友香梨、白石良夫、日高愛子、亀井森、沼尻利通、大久保順子、村上義明、三ツ松誠、脇山真衣、二宮愛理、片桐美優、溝内菜央「小城鍋島文庫蔵『十帖源氏』翻刻稿(三) 玉鬘巻~真木柱巻」『佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要』第11号、査読無、2017年3月、P87~110
(担当箇所 104~106)

(5)林田孝和、沼尻利通、津島昭宏「源氏物語巻別古注釈集成 第35帖若菜下 八」『國學院大学栃木短期大学紀要』第50号、査読無、2016年3月、P126~159

(6)中尾友香梨、白石良夫、日高愛子、三ツ松誠、亀井森、沼尻利通、大久保順子、土屋育子、脇山真衣、二宮愛理、明石麻里、村上義明「小城鍋島文庫蔵『十帖源氏』翻刻稿(二) 賢木巻~少女巻」『佐賀大学文化教育学部研究論文集』第20集第2号、査読無、2016年2月、P1~35(担当箇所18~20)

(7)沼尻利通「〔書評〕森野正弘著『源氏物語の音楽と時間』」『山口国文』第39号、査読無、2016年3月、P127~131

(8)中尾友香梨、白石良夫、日高愛子、三ツ松誠、沼尻利通、大久保順子、土屋育子、明石麻里、村上義明「小城鍋島文庫蔵『十帖源氏』翻刻稿(一) 桐壺~葵巻」『佐賀大学文化教育学部研究論文集』第20集第1

号、査読無、2015年8月、P1~41(担当箇所10~18)

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 1件)

沼尻利通、『紫式部日記本文資料集』福岡教育大学国語教育講座沼尻研究室、2018年2月、313頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

沼尻利通 (NUMAJIRI Toshimichi)

福岡教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：90587635